

寛文中人持組に列し、奏者番となり、貞享四年罷め、元禄元年歿。

**ナガハラマサハル** 永原政張 通稱治兵衛。

左京孝政の次子で、延寶六年配分知五百石を受け、後三百石を加へ、大小將から次第に昇進して魚津在任に至り、正徳三年五月七十三歳を以て歿した。

**ナカハラモトスケ** 中原職資 ↓ヒラタタ

クミ 平田内匠。

**ナカハラモトシ** 中原職俊 ↓ヒラタタ

イジョウ 平田大匠。

**ナガハラヨシトモ** 永原好知 通稱恒太郎。

馬廻組に班し、祿五百石を受け、嘉永以降藩に在つて國事に盡瘁し、元治元年前田慶寧上洛の際、病を努めて奔走した爲、四月廿四日遂に歿した。時に年三十二。大正十五年四月靖國神社に合祀せられた。

**ナカバンドリ** 中番取 鳳至郡下山の内の小字。

**ナカピラキ** 中開 羽咋郡館開の内の小字。

**ナガマキ** 長巻 昔時の大薙刀の類で、身の長さ三尺許、柄は四五尺。もと上國に流行し、大將の側近を護る具といふ。中巻、野太刀、犬殺ともいひ、行軍の途中では草木を倒すにも用ひた。加賀藩で武藝の一種としてそれを教授することは、藩末に近い田邊助正が江戸で之を傳習したに起るといふ。

**ナカマチ** 中町 金澤の町名。大手先なる尾坂下の堅町で、城内から出る通筋である。

**ナガマチ** 長町 金澤の町名。藩政中は都べて藩士の邸地であつた。古來火災なく、寶曆の大火にもその難を遁れたから、諸士の邸宅は甚だ古いものが多かつた。町名はもと香

林坊下から後の宗叔町まで路程の長かつたための稱である。今長町川岸及び長町一番丁から八番丁まで等がある。

**ナカマチノゴウ** 中町野郷 鳳至郡に屬し、藩政時代では、當目・大箱・五十里・柳田・石井・國光・嶋川・麥生野・徳成・徳成谷内・東・圓山・長尾・小間生・桐畑・黒川・河内の十七ヶ村があつた。東村八幡寺藏貞治三年書寫の大般若經奥書に能州上町野御庄麥野村とし、應永六年書寫のものには鳳氣至郡上町野柳田村とあるから、後世の中町野郷は上町野から分離したものであらうといはれる。

**ナカマノミヤ** 仲間の宮 鳳至郡鶴山なる今の春日神社のことであらう。能登誌に、『五十洲より皆月へ八町餘あり。此濱邊を仲間の濱といへり。仲間の宮とて、今鶴山村の産神とす。此地に昔天台宗の大寺ありしとて、仲間の宮は彼廢寺の古佛を納めたる宮にて、今に古佛あり。また境内に法華の題目を彫たる石塔數多あり。其外地名に法積坊・榮林坊杯と今に稱す。又近郷に一向宗の道場數多あり。此寺の坊中の改宗せしものなりといへり。』とある。

**ナガミネ** 長嶺 白山宮莊嚴講中記録享祿四年閏五月九日の條に、『依一本願寺下知之惡ニ超勝寺ト若松蓮谷山田清澤一國同心ノ詳論シ既超勝寺成敗段也。然ハ超勝寺本覺寺一級ノ本願寺方を成、山内ヘ取ノカル、也。此時國榮陣ハ長嶺ニテ山内衆ト取合也。』とある。文脈を見るに長嶺は、白山山麓山内庄の咽喉に當る所と思はれるが、今明らかでない。

**ナガミネ** 長峰 江沼郡山代の垣内に長峰があつたが、後廢絶した。

**ナガミネジヨウ** 長峰城 ↓シバハラジヨウ 芝原城。

**ナカミヤヒサミチ** 中宮久達 通稱武兵衛。半兵衛。安永七年新番に列し、天明元年御近習番、五年奥御納戸奉行となり、七年新知百石を得て組外に進み、次いで大小將組に轉じ、文化十二年五十石を加へ、文政二年八月致仕して十五人扶持を受けた。子孫相繼いで藩に仕へる。

**ナカムラアツノリ** 中村厚徳 通稱左膳・伊織。新知及び加増合はせて七百石に至り、前田吉徳の御部屋附御側小將より、享保九年物頭並に進み、十三年十二月二十四一歳を以て父久左衛門庸信に先だち歿した。是を以て厚徳の子久左衛門齊禮は十六年庸信致仕の祿三百石を襲いだ。

**ナカムライツカク** 中村逸角 曾祖父中村式部少輔一氏は豊臣秀吉に仕へて駿河十七萬三千石を領し、祖父伯耆守忠一は徳川家康に従ひ、伯耆で同じ高を受けた。忠一の子通心、後に牢浪して江戸に居り、逸角はその子であつた。慶安四年來つて前田利常に仕へ、五百石を受け、貞享元年歿。子孫藩に世襲する。

**ナカムライヘマサ** 中村家正 次郎兵衛・八郎兵衛・刑部と稱した。播磨の人。父は肥前守正祝。家正初め宇喜多秀家に仕へ、主君の意を迎へて誅求を事とし、祿漸次増して七千五百石となり、老臣に列し、智數あつて能く財を理し、任用甚だ重かつたが、後同僚と悪しく、致仕して慶長四年京師に隠れ、次いで加賀に來たので、前田利長は越中五箇山に居らしめたが、七年召し還して二千石を賜はり、那政を理せしめ、大坂役には足輕頭となつて

從軍し、寛永十三年歿した。子孫數家に分かれ藩に世襲する。

**ナカムラウタエモン** 中村歌右衛門 歌右衛門は屋號を加賀屋、俳名を一先というた。金澤の醫大關俊安の子で、初名は柴之介。幼より放縱にして讀書を好まず、遂に家業を棄て、藩士の僕となり、後大坂・江戸に流浪すること數年、遂に中村源左衛門の門に入つて俳優となり、寛保二年京都早雲座に登場し、延享四年大坂の大松百助座に轉じて、希代の實惡と稱せられた。天明九年中之座に於いて一世一代の狂言を演ずるに至るまで、演技五十八年の久しきに及び、寛政三年十月廿九日七十四歳で歿。文政六年追悼の碑を金澤卯辰眞成寺に樹てた。その子市兵衛、三代歌右衛門となつた。名は芝翫、後に梅玉、又は百戯園と號し、狂言作者としては金澤龍玉といふた。天保九年七月十三日歿。享年六十一。

**ナカムラカサシヤ** 中村春日社 石川郡中(郡落名)に在る。金澤の犀川春日社も、この神靈を勧請した所で、もと本山派の修驗寶久寺が兩社の別當を兼ねてゐた。明治元年神佛混淆禁止の後、前者は中村神社、後者は犀川神社と改めた。

**ナカムラカツマサ** 中村克正 幼名長松、後宇兵衛典膳。初諱重好。元祿五年十四歳で前田綱紀に召出され、亡父知行の内二百石を受け、十一年奥小將、寶永七年奥小將番頭となり、馬廻頭・定番頭を勤め、祿千五百石に至る。延享四年致仕して已朽と稱し、寶永元年閏六月十二日七十三歳で歿。その著に松雲公夜話・元禄中日録一名中村典膳覺書がある。克正の系統の前後は不明のやうである。